

就農事例

真鍋基彦氏

調査日 令和2年11月(就農後6年目)

所在地 香川県三豊市

経営主 真鍋 基彦

主要事業 露地野菜部門

主要作目 葉ネギ2ha、キャベツ0.8ha
ブロッコリー2ha
スイートコーン 1ha

就農タイプ 新規就農(非農家出身)

就農時期 平成27年

売上 2,000万円

労働力 家族 2名(本人、母)
雇用 2名

ヒストリーあらすじ

・他産業に従事していたが、自分で作ったモノを消費者に食べてもらえること、地元で就業できる農業の魅力に惹かれ、就農への想いが強くなってきた。

・平成27年、就農を決意し農業を基本から学ぶために、香川県農協のインターン制度に応募し、露地野菜経営農家での研修を修了した。露地野菜を志向したのは、年間を通じ様々な品目を生産できることや実家の周辺で農地集積が可能であることなどから。

・就農準備として、農業委員や周辺農家の先輩に相談にのってもらったり、農地の貸借にも力添えをいただけたことが円滑な就農に結びついた。

・就農当初は地域の水利慣行を十分に知らなかったことや、水田の高低差によって土壌条件が異なってくることなど、一通りの生産方法では思ったように生産できないことを実感。経験を重ね、地域ごと、水田ごとの生産方法を徐々に身に付けるように心掛けた。

・平成27年、西讃農業者クラブに加入し 同世代の仲間との交流を通じて、互いの経営課題を解決できるような取組みを行っている。

・令和2年には認定新規就農者の期間も満了し、更なる規模拡大と経営発展を目指して、認定農業者の認定を受け、農業経営者としても成長できるよう日々奮闘中。

エッセンス	
●基礎固め	<ul style="list-style-type: none">・農地の特徴をつかみ集積していく・基本となる生産技術をしっかりと・人材の確保と人を雇える規模の経営
●生産体系の構築	<ul style="list-style-type: none">・大型機械導入によるほ場作業の効率化・生食用、業務用野菜の出荷形態に応じた栽培管理・経営に携わる者全てが、全ての経験を積んでおく
●地域と歩む	<ul style="list-style-type: none">・地域の担い手として認めもらう・各種農業関係組織への参加・新たな新規就農者の良き相談相手に



管理機による中耕作業



ブームスプレーヤによる
病虫害防除作業



早朝からのブロッコリー収穫作業



西讃農業者クラブでの病虫害防除研修会
(右から4人目)



荷台を用いたキャベツ収穫作業

真鍋基彦氏 ヒストリー

就農前	就農期 (平成27年～)	確立期 (令和元年～)	発展・将来構想
<p>●他産業に従事、モノづくりへのあこがれ</p> <p>・自分が作ったモノを消費者が食べてもらえる農業に尊さを感じていた。</p> <p>農業への関心が高まる一方、農業経験のない自分が、農業を事業として取り組めるのか不安があった。</p>	<p>●平成27年就農</p> <p>・研修の経験を活かし野菜の周年生産を目指し、主となる労働力も一人であったため、出荷形態等が簡素化できる業務用葉ネギの生産を中心に、地元特産物のキャベツの生産を組み合わせる。</p> <p>農業委員や先輩農家の協力を受け、農地の集積を進めてきたが、ほ場ごとに排水性等が異なることを実感。 品質や生産量を確保するため技術改善を検討。</p>	<p>●雇用の定着</p> <p>・規模拡大に伴い雇用の導入を進めてきており、継続して働いてもらうために家庭の事情に合わせた働き方ができるような環境整備に取り組む。</p> <p>歩合制の導入など雇用者がやりがいを持って働けるよう工夫してきた。</p>	<p>●地域の一員として</p> <p>・地域の事情も鑑み、農地の集積・集約を進め、効率的な農業が展開できるようにしたい。葉ネギなど露地野菜の作付面積10haが当面の目標。</p> <p>就農からこれまで、地域の方の理解と協力をいただいていることに感謝。地域に根付いた農園として成長したい。</p>
<p>●JAインターン制度の門を叩く</p> <p>・農業のいろはから学ぼうと、JAのインターン制度を活用し、野菜作りに関心があったことから、大規模露地野菜経営などで研修を重ねた。</p> <p>一年間の気象の変化に対応しながら、生育や収穫等の管理をしなければならず、経営者の果たすべき役割を学んだ</p>	<p>●生産量と品質の安定</p> <p>・トラクターを始め、畦立て機、肥料散布機などの省力化機械を徐々に整備した。土づくりや排水性の改善のために堆肥散布機も導入し、品質や生産量を確保。</p> <p>作付面積も毎年拡大することができた。 葉ネギ 250a、キャベツ 200a、 ブロッコリー 200a、スイートコーン 50a</p>	<p>●機械化体系の構築</p> <p>・生産・収穫・出荷調整と一連の作業を、従業員らの働き方も加味して農業機械等の整備を進めている。</p> <p>作業体系をより効率化するため高額であったが、フームスプレーヤーを導入した。天候不順の中、短時間で作業ができることも大きなメリット。</p>	<p>●経営者として</p> <p>・野菜の生産管理、経営管理及び労務管理など経営者として資質向上・農業経営でもここまでできるといった気持ちで、経営発展の方向性を探っていききたい。</p> <p>モノづくりといっても、農業は気象など様々な条件を克服していかなければならない。それも農業の魅力と捉えることができるよう前向きな気持ちを持ち続けたい。</p>

真鍋 基彦氏 <課題と対応策>

フェーズ		就農前	転換期 平成27年～	確立期 令和元年～	発展・将来展望
主な出来事		・JAインターン生(1年間)	・葉ネギやキャベツの生産を志向	・大型機械導入による効率化	・経営者としての成長
経営課題	ヒト・組織	大規模露地野菜経営で研修	母親と二人で開始	雇用の安定的定着	メリハリのある働き方
	土地・設備	所有地15aと僅少	規模拡大・農地の集積	規模拡大・農地の集積	効率的活用
	カネ	就農後の資金繰りをイメージ	運転資金や設備資金	健全な資金繰り	安定的な資金繰り
	技術・ノウハウ	研修先で一から習得	ほ場に適した生産技術習得	大規模化に応じた技術確立	ほ場ごとの安定生産
	販売・販路	JAへの出荷	JA以外の販路も検討	複数の販路の安定継続	複数の販路の安定継続
	情報	JA、研修先	情報網の拡大	情報網の拡大	情報網の拡大
	地域	三豊地区 野菜や果樹の産地が形成	農地の情報	地域農業の担い手として	地域農業の担い手として
	具体的内容	・野菜の生産経験は全くなく、 実家には、家庭菜園があるだけ の状況からの出発。	・野菜の規模拡大とともに地域の 土地条件等応じた生産経技術の 基本的確立。	・経営品目を固めつつ、規模拡大 の構想を描くことができ、そのた めの取り組みが必要。	・更なる規模拡大と安定的生産 のための、生産管理や労務 管理等経営者としての資質向上
対応策		・JAでの座学研修や農家研修 で、生産だけでなく農業経営を 取り巻く状況や支援制度等を 学ぶよう心掛けた。	・農業委員や先輩農家に相談 ・補助事業や制度資金活用 ・ほ場ごとの生育状況の把握 ・周辺生産者と連携し販路を開拓 してきた。	・職場環境の改善(休憩施設等) ・社会保険労務士に相談 ・業務用野菜の出荷量増大等、 大規模化に対応できる大型防除 機の導入	・経営に従事する者全てが、 やりがいをもって取り組めるよ う、自ら生産者や関係者か ら様々の情報を収集して、経 営に還元したい。
外部環境					